

国産コーヒー栽培と課題



コーヒー栽培者 石関

沖縄珈琲生産組合でコーヒー栽培に関する研究をしております 石関 と申します。

国産コーヒー栽培について紹介させていただきます。



【世界の珈琲生産地と日本】

はじめに 世界のコーヒー生産地は北緯 25 度 南緯 25 度のコーヒーベルトと呼ばれる地域で生産されています。

これは、コーヒーの生育環境が概ね平均気温 20℃、年間降雨量 2000mm が適しており暑い地域では高地栽培されています。沖縄は北緯 26 度なので最北限になりますが古くから沖縄と小笠原ではコーヒー栽培されていました。近年は屋久島でもコーヒー栽培に成功し日本での北限が上がっております。また本土では耐寒性がある品種を導入し無加温ハウスで実験している方もおります。

【もっと良い品種ないかな？】

沖縄においてコーヒーの品種による選抜がされていないので、現在の**ブラジル産アラビカ種**よりも適したものがあるのではないかとということで新しい品種の栽培にチャレンジしております。

台風対策のための低樹高の矮性種やサビ病対策のロブスタ種また様々なアラビカ亜種を試験栽培中です。



【コーヒー栽培者の栽培法】

2015 年現在 沖縄のコーヒー栽培者の栽培法は概ね 80%が露地栽培 15%が森林栽培 5%がハウス栽培といったところ です。

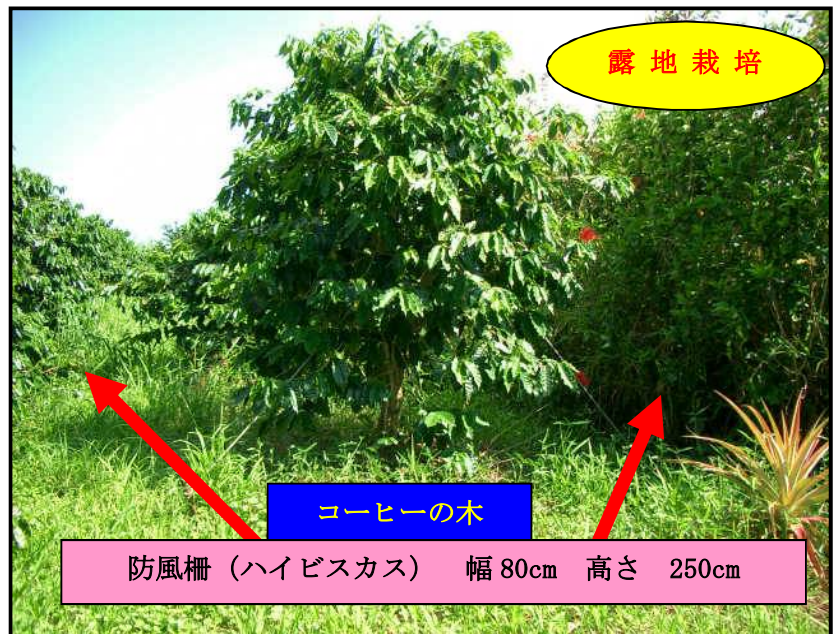


それぞれにメリットとデメリットはありますが、安定生産をするのであれば、ハウス栽培が一番適しており次に森林栽培が良いと思います。但し森林栽培でも地形的に強風の影響が軽微なところでは安定生産が可能であります。



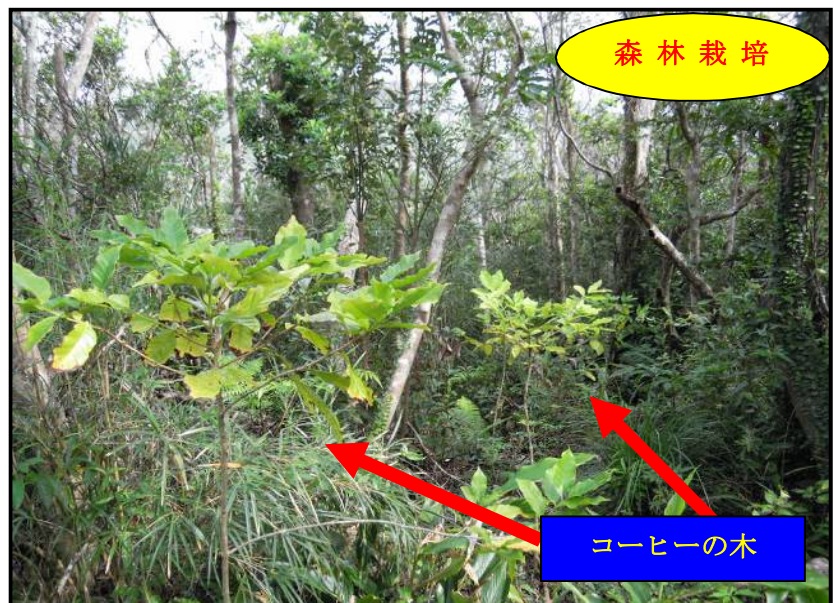
【国産コーヒー栽培の課題】

沖縄や小笠原では昔からコーヒー栽培されているのに産業として発展しないのは毎年来る大型台風があるからです。コーヒーは風に変弱く防風対策をしても必ず被害が出てしまいます。安定生産にはこの台風対策が必要になってきます。右写真（上）ではコーヒーの樹高が2mに対しハイビスカスを2.5mの高さにして木を守っています（耐風速 30m/s）



右写真（中央）は森の中でコーヒーを育てています。周りの木々が防風林になり完璧な台風対策になります。

しかし、コーヒーは陰樹ではありますが、森の中なので光量不足になる点と既存植物とのアレロパシーの問題があり、栽培者は今後観察しながら解決していきたいとの事でした。



右写真（下）はハウス栽培です。沖縄でのハウス栽培は冬場に加温する必要はなく通常は防風ネットを張り台風時にビニールを下げるW方式です。ハウス栽培は照度のコントロールできる点が良く5万ルクス前後の調整がベストだと思います。欠点は夏場の温度上昇と風通しですがコーヒーの生育適温は25℃なのでハウス内温度を下げる工夫が必要になります。

